

実生活に結び付く社会科公民的分野の指導の工夫
－社会の形成者の視点から振り返る活動を通して－

義務教育研究係

渡会 未央 (中学校教諭)

山口 芳樹 (中学校教諭)

若林 拓也 (中学校教諭)

I テーマ設定の理由

現代の子どもたちの取り巻く社会状況は、少子・高齢化や情報化、国際化・グローバル化など急速に変化し、「知識基盤社会」の時代になってきている。平成20年1月の中教審答申では、この知識基盤社会において、子どもたちの必要な力は「生きる力」にほかならないとしている。さらに平成21年3月の群馬県教育振興基本計画の基本目標では「たくましく生きる力をはぐくむ～自ら学び、自ら考える力を～」としていることから、「生きる力」をはぐくむために必要なこととして、社会科の目標である「公民的資質の基礎を養う」ことがますます重要になってきている。

中教審答申は全国学力・学習状況調査の結果を「知識・技能を活用する力が身に付いている子どもは基礎的・基本的な知識・技能も定着している傾向にあるが、知識・技能が定着しているからといって、それらを活用する力が身に付いているとは限らない」と分析している。そして、社会科の授業においても、既習内容を知識として習得していても、実生活で生かす（活用する）ことまでに至っていないという傾向が見られる。

そこで、基礎的・基本的な知識、概念や技能を習得させるとともに、その既習内容を活用し、実生活につなげていく活動を取り入れていくことが必要である。つまり、生徒が社会の形成者という立場で課題をとらえ、既習内容が生徒の実生活と結び付いていることを意識することが重要であると考えます。

そして、実生活につなげていく活動を取り入れていくことによって、生徒は社会的事象を自己の問題としてとらえることで自分自身が社会の形成者であるという認識を深めることができる。ひいては社会に貢献できる公民的資質を養うことにつながっていくことになると思います。

以上のことから、本研究では生徒の身近な事柄を課題として学習を進め、社会の形成者の視点から振り返る活動を通していくことで、既習内容が生徒の実生活と結び付いていることに気付かせることができると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらいと課題解決策

本研究では、社会科公民的分野の学習において、身近な課題を設定し、それを追究する過程において課題について振り返る（考察する）活動を取り入れることによって、学習内容が生徒の実生活と結び付くことを明らかにする。

課題解決策として、単元の再構成をして授業を行う。具体的には、以下のような手順で構成していく。

①課題設定 → ②振り返る活動 → ③新たな学びへの意欲
<つかむ> <追究する> <まとめる>

①の「課題設定」では、生徒にとって実生活に結び付く課題（身近な話題であり、社会の形成者の視点であること）を設定する。具体的には新聞などのニュース、生活上の問題、自分の生活の中で感じたことなどから設定していく。この課題が単元全体を通し、学習内容を振り返る視点となる。

②の「振り返る活動」では、個別の内容について学習を進めながら、①の課題について追究していく。ここでは①の課題を各時間の学習の視点として、その時間で得られた知識や、考えたこと・気付いたことなどを基に課題に立ち返り、考察を繰り返していくこととする。よって、この「追究する」過程を、「振り返る活動」という名称で設定した。①の課題に立ち返って考察を繰り返すことにより、社会科の学習内容が実生活に深く結び付いていることを意識させることができると思う。

③の「新たな学びへの意欲」では、「振り返る活動」での学習を基に、①の課題についてまとめしていく。②で得た知識や考察したことを関連させたり、総合したりしながら①の課題を考察し、実生活への気付き（発見・驚き・実感）へと結び付けていく。この気付きを基に実生活を見つめ直し、身近な社会的事象に目を向けることで、これからの社会科学習への意欲が高まっていくであろう。

検証方法としては、課題追究におけるワークシートなどへの記述、話し合い活動での発言、まとめる段階での感想や記述などから検証を進めていく。

Ⅲ 課題解決のための具体的実践

実践 1：私たちと経済（市場の働きと経済）

（1）単元の流れ

過程	時間	ねらいと学習活動
課題設定	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">実生活の経験を基に視点を明らかにしながら考え、課題を設定する</div> ○実生活を思い浮かべながら商品選択について視点を明らかにしながら考え課題を設定する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">（共通課題）かしこい消費者になるためにはどうしたらいいだろう？</div>
	検証授業	
振り返る活動	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">家計について理解する</div> ○自分が収入を得る立場になったとき、どのように家計をやりくりするか計画を立て、家計について理解する。
	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">広告から商品選択について考え、「環境」という視点について理解する</div> ○広告から商品選択について考え、同時に商品選択において環境という視点が重要になりつつある現状を理解する。
	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">消費者の権利について考える</div> ○取扱説明書の注意書について議論し、消費者被害と企業の責任について考える。
	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">商品の流通について理解する</div> ○商品がどのように消費者の手元に届くのか、また流通と価格の関係について理解する。

新たな 学びへ の意欲	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">学習したことを基に、共通課題について考察する</div> ○「振り返る活動」における各時間の学習を確認し、それに基づいて共通課題に立ち返り、将来どのような消費者になりたいかについて考える。
-------------------	---	--

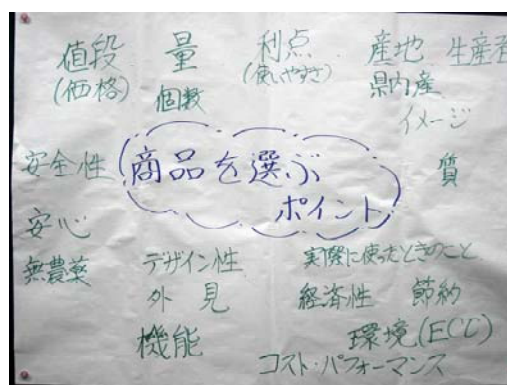
(2) 検証授業の様子

第1時「課題設定」の時間を検証授業として行った。実生活の経験を基に、商品選択について視点を明らかにしながら考え、課題を設定することをねらいとした。

最初はジャガイモを扱い、価格は安いが生産地しか分からないものをA、価格は高いが生産地以外にも生産者が分かり無農薬のものをBとして、どちらかを選ばせた。選んだ理由を付箋紙に書き、同じ商品を選んだもの同士でグループを作り、KJ法を用いて視点をまとめ発表していった。生徒から出された視点は、「価格」「量」「産地」「安全」「安心」などであった。

つぎに薄型デジタルテレビを買うという仮想の設定をした。画面の大きさは同じだが価格の違うテレビを3つ提示し、その中から一つ選択させた。ここでは授業者を含めた3名の教員がテレビの販売員になり、生徒は各販売員に質問しながら商品の特徴を聞き出し、一つを選ぶこととした。出された視点としては「価格」「保証期間」「経済性」「外見」「コストパフォーマンス」などがあった。

生徒から出された視点を次時以降の学習でも確認したり整理したりできるように、模造紙を黒板に貼り、そこに書き出していった。2つの商品についてたくさんの視点が出てきたことで「実際に商品を買うときどんな視点で選べばよいだろう」という疑問を投げかけて「かしこい消費者になるためには？」という課題を設定し、次時以降の学習を進めていくことを確認した。



生徒から出された視点

(3) 成果と課題

成果

単元を通してB4判のワークシートを使用し、一番上には共通課題を書かせた。その下に「振り返る活動」4時間分の枠をそれぞれ設け、学習課題と感想や疑問を書くこととした。これにより共通課題を念頭に置きながら、各時間の学習について分かったことや考えたことを書くことができた。ワークシートの一番下には「新たな学びへの意欲」の時間で共通課題についての考察を書く欄を設けた。「振り返る活動」4時間の感想が同じワークシートに書かれているので、生徒はそれらを総合しながら、かしこい消費者とはどのようなものか、将来はどのようなことに気を付けながら商品を選んでいきたいかをまとめることができた。

課題

「振り返る活動」の各時間で感想や分かったことをまとめる際、共通課題とつながりをもたせて各学習を振り返ることができたかについては個人差が見られた。また「新たな学びへの意欲」の時間にそれまでの学習内容をまとめて共通課題を考察するときも、内容に差が現れてしまった。共通課題と関連させて各時間の学習課題を設定する、「振り返る活動」での各学習内容のつながりを明確にするなどの工夫が必要であった。そのためには第1時で作った模造紙から各時間の課題を見付けたり、学習を進めながら模造紙の内容を整理・発展させたりするなど、最初に生徒から出された商品選択の視点を活用して、単元全体のつながりを意識させる手立てを取り入れていくべきだったと考える。

実践 2 : 私たちと政治 (民主政治と政治参加・地方自治)

(1) 単元の流れ

過程	時間	ねらいと学習活動
課題設定	1 検証 授業	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">要望や願いを実現するための方法を自分の個人課題として設定する</p> <p>○現在の生活におけるプラス面、マイナス面を見付ける。 (高崎市との合併もふまえて)</p> <p>○解決したい事柄(現在の生活の要望や願い)を見つける。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">共通課題:自分たちができることで私たちの生活を変える方法は何か。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">個人課題:市長になる方法、署名活動の方法、市役所に要望を出す方法 知事に要望を出す方法</p>
振り返る活動	1	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">地方自治の意味と役割・しくみについて理解することを通して、個人課題を見直す</p> <p>○地方自治の意味と役割、地方自治のしくみについて理解する。 学習内容:地方公共団体(地方自治体) 地方公共団体の仕事(地方自治の役割) 地方自治の原則 地方公共団体の住民の選挙権・被選挙権 地方議会と首長の役割</p>
	1	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">地方分権の動きと住民参加の方法について理解することを通して、個人課題を見直す</p> <p>○地方分権の動きと住民参加の方法を理解する。 学習内容:地方分権 地方財政 住民参加</p>
	1	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「地域づくり」の意義と重要性を理解して「地域づくり」に関心を持ち、進んで地域の活動に参加しようとする意欲をもつことを通して個人課題を見直す</p> <p>○「地域づくり」の意義と重要性について理解し、「地域づくり」に関心を持ち、進んで地域の活動に参加しようとする意欲をもつ。 学習内容:地域づくり 市町村合併</p>
新たな学びへの意欲	1	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">これまで学習したことを基にして、個人課題・共通課題について考察する</p> <p>○個人課題が解決できたかを考察する。</p> <p>○共通課題も振り返って、解決したい事柄を解決する方法がその方法でよかったのかも含めて考察する。</p> <p>○学習したことを踏まえて、新たな視点をもつ。(地方税)</p>

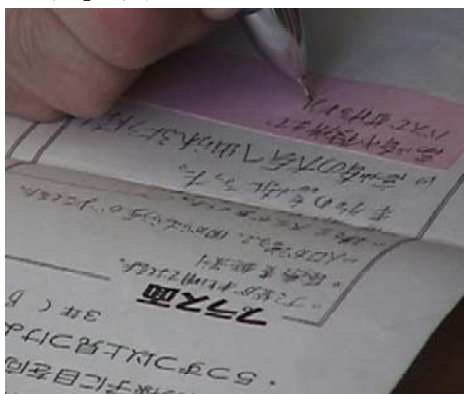
(2) 検証授業の様子

「導入」場面において、吉井町支所・高崎市役所・入野中学校の写真を提示し、何を表しているか考えさせた。次に模造紙を掲示して、授業の前半の流れを説明した。

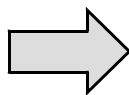
「展開」場面では、まず、高崎市との合併で変わったことを踏まえ、現在の生活でのプラス面、マイナス面を付箋に書き出し、書き出した付箋をプラス面とマイナス面に分類しながら班のワークシートに貼り付けた。プラス面、マイナス面は生徒自身の体験から気付くことだけで

なく、保護者からも聞き取り調査をして社会の形成者としての視点から出していった。そのプラス面、マイナス面に分類した中から、生徒一人一人が解決したい事柄（現在の生活の要望や願い）を1つ選び、ワークシートに記入させた。次に授業の後半の流れの模造紙を掲示し、流れをつかませ、共通課題「自分たちができることで私たちの生活を変える方法は何か。」を提示した。解決（要望や願いを実現）するにはどうしたらよいかや解決する方法（要望や願いを実現するための方法）を考え、付箋に書き出した。さらに、今すぐできること、将来的にできることなどの具体的な方法をいくつも考えさせた。付箋に書き出したものの中から1つ選び、個人のワークシートに貼り、この単元を学習する上での個人課題を設定させた。個人課題は単元を通した課題になることを伝えた。解決したい事柄と解決する方法（選んだ付箋＝個人課題）を班内で発表した。

「展開」場面におけるワークシートの活用



個人の要望や願いを書き出す



付箋紙を基に話し合いを行う

「まとめ」段階では個人のワークシートに個人課題をまとめ、授業を振り返って、感想を書く活動を行った。

（3）成果と課題

成果

身近な問題に目を向けさせ、現在の生活における要望や願いを見付けさせたため、個人課題を立てる段階からこの単元の学習が実生活に結び付いていることに気づき、興味をもって学習を進めていくことができた。また、「振り返る活動」においても個人課題について考察を繰り返すことにより、社会科の学習が実生活に深く結び付いていることを意識させることができた。

現在の生活でのプラス面、マイナス面については生徒自身の体験から気付くことだけでなく、保護者からも聞き取り調査をさせたため、社会の形成者としての視点からも意見が出された。

ワークシートを工夫したことにより、学習の流れ、思考の流れに基づいて一単位時間がスムーズに進められた。

「振り返る活動」では、一単位時間ごとに個人課題（個人の要望や願い）を振り返らせた。この活動を通して、生徒は自分の課題が解決していくことを経験した。

課題

個人課題の設定において、現在の生活でのプラス面についてあまり触れられなかった。

「振り返る活動」を行っても、個人課題の解決策が学習内容の中に含まれていないということがあり、課題解決するために自主的に調べ学習をしなくてはならない場合もあった。生徒にとって有効な資料を提示し、課題解決の支援の工夫ができるとよかったのではないだろうか。

個人課題がそのまま要望や願いを解決する手段になっていたり、個人課題の解決策が学習内容の表面的な部分や方法論だけにとどまっていたり、生徒にとって本当に課題が解決したことになっていなかったりして、達成感をもてない生徒もいた。個人課題を設定する場合の留意点を明確に示すとともに、個人の課題の解決の方法を吟味して指導助言する必要があった。

実践3：私たちと政治（民主政治と政治参加・我が国の民主政治）

(1) 単元の流れ

過程	時間	ねらいと学習活動
課題設定	1	<p>八ツ場ダム問題を通して、国会・内閣にかかわる共通課題を決める</p> <ul style="list-style-type: none"> ○八ツ場ダム問題の概略をつかむ。 ○付箋紙を使って自分の考えを整理していく。(KJ法) ○共通課題を考え、まとめる。 なぜ今、八ツ場ダム建設が中止なのか？
	1	<p>八ツ場ダム問題を通して、国会・内閣にかかわる個人の視点を定める</p> <ul style="list-style-type: none"> ○課題解決のための個々の視点について、班活動によって意見交流を行い自分の視点を明確化する。 国会：マニフェスト、政党、選挙、予算、衆議院 内閣：鳩山内閣（政権）、前原国交相、国土交通省、予算案、行政改革
振り返る活動	1	<p>八ツ場ダム問題を通して、国会について理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国会の学習内容を理解し、現行の選挙制度などについてもふれる。
	1	<ul style="list-style-type: none"> ○個人の視点を基に班で確認しながら意見交流を行い、共通課題の解決を図る。また、新聞記事や資料を使って調べ、まとめる。
	1	<p>八ツ場ダム問題を通して、内閣について理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○内閣の学習内容を理解し、国交省を中心に省庁についても触れる。
	1	<ul style="list-style-type: none"> ○個人の視点を基に班で確認しながら意見交流を行い、共通課題の解決を図る。また、新聞記事や資料を使って調べ、まとめる。
新たな学びへの意欲	1	<p>八ツ場ダム問題を通して、国会と内閣のかかわりについて整理する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○八ツ場ダム問題（国会・内閣）を整理し、国政についてまとめる。 ○個々の視点をもとに班で確認しながら意見交流を行い、共通課題の解決を図り、さらに、個人の視点をもとに国会・内閣について理解ができ、習得した知識が活用できているか確認する。
	1	<p>これからの八ツ場ダム問題を通して、裁判所について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ○裁判所の学習内容を理解し、裁判員制度を多面的・多角的に考える。
	1	<ul style="list-style-type: none"> ○これからの問題として、訴訟（民事裁判・行政訴訟）をシミュレーションしていき、その過程で、意見交流を行う。
	1	<p>八ツ場ダム問題のこれからについて、提案する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○八ツ場ダム問題のこれからについて、各班が提案をする。 ○お互いの意見を聞き合う中で、新たな視点をもつ。

(2) 検証授業の様子

この授業では、今までの「振り返る活動」(国会・内閣)をもとに知識を整理し、グループの意見交流によって、新たな視点(国会と内閣の関わり)に気付くことができたかを確認した。授業の流れ「個→班→全体→個」は以下の通りである。

- ① 今まで見てきた新聞資料を基にして、国会や内閣と個人の視点を照らし合わせ、八ツ場ダム問題についてのキーワードを基に考察してまとめる。(個)
- ② 話し合い活動〔右図〕で意見交流をし、個々の意見をもとに共通課題についてまとめる。(班)
- ③ 各班の発表を聞き合いながら、黒板上のキーワードを使って、国会と内閣のつながりを図示し、八ツ場ダム建設中止の流れについてまとめる。(全体)〔下図〕



話し合い活動



黒板のまとめ

(国会と内閣のかかわり)

麻生内閣→衆議院解散→衆議院議員総選挙
→民主党勝利→鳩山内閣→前原国交相
→マニフェスト→予算案→八ツ場ダム建設中止

- ④ 新たに気付いたことや疑問点についてワークシートにまとめ発表する。(個)
生徒の記述から、本授業を通じて様々な気付きと考察の深まりが見られた。

- ・国会と内閣は深くかかわっていて、八ツ場ダム建設中止の流れがはっきりした。
 - ・ダム建設に今までかかわってきた予算はどうなるのか疑問である。
 - ・政権交代によって、ダム建設の動きが大きく変わったことが分かった。
 - ・今後、地元の人々との間でどのように解決していくのか。
 - ・これから中止にするにしても、法律を決める必要があると思った。
 - ・中止の動きは進んでいるが、反対する人々も多くいることが分かった。
- 裁判所
→地方自治

(3) 成果と課題

成果

「振り返る活動」を国会と内閣に限定し、現状では八ツ場ダム問題とかかわりが薄い裁判所について「新たな学びへの意欲」として単元の再構成をしたことで、学習内容の思考のつながりがスムーズになり、我が国の民主政治についてまとめやすくなった。「振り返る活動」をふまえた次時の検証授業では、生徒個々が身近なこととして我が国の民主政治をとらえ内容の理解ができていたため、国会と内閣のかかわりについてまとめでは今までの知識が整理され、さらに新たな気付きや思考の深まりが見られ、学ぶ意欲へとつながっていった。

課題

話題性のある時事問題であっても、ただ教えただけでは社会の形成者の視点でとらえたとはいえない。そこに考察の場を取り入れていく必要がある。具体的には検証授業でも取り上げたように話し合い活動などの「班」活動が効果的だと考えられる。しかし、今回の「班」活動では5～6人と人数が多かったことや課題のたたせ方が十分でなかったことから、交流に参加できていない生徒がいた。改善策として、人数を3～4人にすることや、「個」の活動で書く付箋紙を大きくすることで「班」活動でお互いの意見を確認しやすくなる必要があった。

IV 研究の成果と課題

1 成果

「私たちと経済」では、単元を通して一枚のワークシートを使用することにより、共通課題を念頭に置き、「振り返る活動」4時間の感想を総合しながら、かしこい消費者とはどのようなものか、将来はどのようなことに気を付けながら商品を選んでいきたいかをまとめることができた。

「私たちと政治（地方自治）」は、生徒にとってタイムリーな話題であり、身近な学習となり興味をもって学習することができた。また、単元の流れを工夫したことで、学習したことが直接、現在や将来の生活に役立つことを意識することができて意欲的に取り組む姿が見られ、理解が深まった。

「私たちと政治（我が国の民主政治）」では、一見身近な生活とかけ離れた我が国の民主政治を実生活と結び付けるために、話題性のある時事問題として八ツ場ダム問題を取り上げた。その結果、単元の流れとして個々の生徒の関心が高まり、さらに「振り返る活動」を行っていく中で、視点が社会の形成者としての広い視野でとらえることができ、実感を伴って内容を理解することができた。自分の身近な問題（八ツ場ダム問題）が我が国の民主政治と深くかかわっていることを単元全体を通して理解することができた。

経済・政治（地方自治・我が国の民主政治）の学習において身近な問題から課題を設定することで、学習に対する生徒の関心を高めることができた。また「振り返る活動」において学習内容と課題とのつながりを意識することで習内容が地域や世の中で起きている出来事とかかわりがあることに気付いたり、「将来はこんなことに気を付けて商品を買いたい」「新聞を見ながら、政治のことをもっと知りたい」などの意欲をもったりすることができた。

2 課題

「私たちと経済」では、「振り返る活動」4時間の学習のつながりが明確ではなかったために「新たな学びへの意欲」で学習内容をまとめて共通課題を考察するとき、内容に差が現れてしまった。各時間のつながりをもっと工夫すべきだったと感じた。

「私たちと政治（地方自治）」では、身近な問題に目を向けさせて課題設定させたため、地方自治のとらえが市町村単位の問題に限られてしまった。都道府県というとらえの個人課題は設定できなかった。個人課題の解決の方法は一つではないので、「新たな学びへの意欲」の段階において他の生徒と比較検討させたが、どの解決方法が一番良い方法かということを生徒に考察させることは難しかった。

「私たちと政治（我が国の民主政治）」では、単元全体で、資料の事前準備と精選が重要であると感じた。資料の掲示過多は思考を深めることにはつながらず、思考の混乱を招く恐れがあることに気を付けなければならない。そして、ワークシートについては、個々の生徒の思考の深まりがわかるように工夫したり改善したりする必要がある。

経済・政治（地方自治・我が国の民主政治）の学習における単元の再構成では、実生活に結び付けるために「課題設定」では、興味関心のもてる課題設定ができたか。次の「振り返る活動」では、最終的に合意の形成へとつながる話合い活動を効果的に入れられたか。最後の「新たな学びへの意欲」では、単なるまとめだけにならず、疑問が生まれるような発問や投げかけを与えられることができたかに気を付けて指導していく必要がある。

本研究の各実践を通し、生徒は学習内容が実生活と結び付いていることに気付くことができた。今後の課題として、その気付きを基に社会の形成者として実践する力をどのように育成するか、さらなる研究が必要であると考えられる。